

平成26年度 第1回 蕨市地域包括支援センター運営協議会 会議概要

1. 日 時 平成26年6月3日(火) 午後1時30分～3時
2. 会 場 蕨市総合社会福祉センター 3階 第2集会室
3. 出席者 (敬称略)
委 員：飯野朗子 羽根田高洋 奥田邦義
大濱益子 本吉義博 水野由喜男 生井恵 岡本和子
事務局：川崎文也(健康福祉部長) 小栗信二(介護保険室長)
鈴木美紀子(介護保険室係長) 田澤美佳(介護保険室技術主査)
白井 敦(介護保険室主事)
地域包括支援センター：土肥仁美(所長) 伊東光枝(看護師)
小山睦美(社会福祉士)

4. 内 容

【議 題】

- (1) 平成25年度 地域包括支援センター事業実績および決算報告について
(事務局より説明)
- (2) 平成26年度 地域包括支援センター事業計画について
(事務局より説明)
- (3) 平成26年度 介護予防サービス計画作成委託事業所(案)について
(事務局より説明)

(質疑)

委 員：毎年、ぴんしゃん教室に申し込むが、満員でなかなか参加できないという声がある。
対策は何かあるか。

事務局：教室を運営していく上での課題になっている。参加者の方に聞くと一年間通して参加できる体操教室がない。色々な会場で開催しているぴんしゃん教室に参加することが自分の健康維持につながると考えて継続的に参加されている方が多い現状となっている。
ぴんしゃん教室も10年間かけて、ここまでの人気の教室になったことを踏まえて、より多くの市民に参加してもらいたいと思っている。具体的な対策としては、「わらび元気アップ教室」を、ぴんしゃん教室に参加できなかった人に参加してもらったり、新しい参加希望者を掘り起こして参加を呼び掛けている。参加者の最高年齢は90歳代であり、介護予防事業から介護保険サービスを利用するようになるというような世代交代の流れも出てきている。

委 員：ぴんしゃん教室は、グループ単位での申込受付はできるか。

事務局：グループ単位での申込受付はしていない。

申込み方法についても、課題となっている。現在の方法は先着順で申込開始の時間についても厳守しており、申込開始の初日に定員になってしまうことも多い。

平成25年度は、定員を増やしたが状況としては大きく変わっていない。

電話での申込以外に、地域包括支援センターの窓口での受付も行っているが、一人ずつ順番で行っている。

申込み方法については、今後改善策を考える必要があると感じている。

委員：各公民館で実施している教室と地域包括支援センターで実施している教室と、申し込み方法等についても、市民はきちんと区別ができていないように感じる。

公民館に申込みに行ったが、申込みができなかったという声を聞くことがある。

今後、申込み方法についても伝えていくお手伝いをしていきたい。

委員：何回か、ぴんしゃん教室に参加された方は「同好会」のようなものを作って、そこに参加することで、新しい人が参加できる形にしたらどうか。せっかく教室に参加してぴんしゃん体操が出来るようになって、一人ではなかなか継続できない。みんなで声掛けして継続できるような方法を考えることが必要である。教室を卒業して次のステップに進めるような受け皿を考えるようなことを実施しないと新しい参加者を増やすことはできないと思う。

委員：高齢者は、ぴんしゃん教室に参加したいから自宅でも歩いたり、また来年も教室に行けるように自分の体を作っている。何回か参加したら終わりになってしまったら寂しくなってしまうのではないか。行くところもなくなり、ずっと家の中にいたら話もしないで、返って認知症になってしまう。悪いことにつながって良いことにはならない気がする。

やはり、そういう人たちだけの別のグループを作っていくことが大切ではないか。

この場所に行けば「ぴんしゃん体操をみんなで実践できる」というような受け皿を作り、他の人の元気さを見て自分も頑張ろうということがあるので、途中で参加できる場所がなくなってしまうことはよくない。切れ目なく参加ができる場所づくりが大切であると感じる。

事務局：委員の皆様のご意見を参考に今後も介護予防事業を実践していきたいと思います。